

折々の記 No187：日本の凋落！

(H24/2/28 記)

本日民間事故調(福島原発独立検証委員会)の調査報告書が公表された。前号でも指摘した事項が、今回は歯に衣着せぬ言辞で批判されている。「稚拙で泥縄式な危機管理」、「場当たりの」、「菅首相の行動を「混乱や摩擦のもとになった」「SPEED Iの存在を知らなかった」等々政府事故調よりも踏み込んだ表現である。報告書の全体が公表されていないので詳細についての言及は避けたい。何れにしても、当初から指摘されていたように、「人災」という側面が強いようだ。

首相以下関係政治家が原子力事故対策について全く何も知らず、慌てて六法全書を紐解くというのは正に泥縄以外の何物でもない。官僚が報告しようとしても聞く耳を持たなかったのか、官僚が指示されない限り報告しようとしなかったのか、何れか判然とはしないが、官僚の消極的な姿勢が解せない。国難である、職を賭してでも己の信念を貫くべきではないのか、報告書の全体を読んでから考えてみたい。

民間事故調のプレスリリースにあるテーマは以下の通りである。

①並行連鎖原災 ②防護服姿の作業員はみな顔面蒼白だった ③環境汚染、低線量被爆の問題 ④最悪シナリオの公表 ⑤官邸中枢のクライシスマネジメント ⑥情報は誰のものか ⑦オフサイトセンターは何故機能しなかったのか ⑧SPEED Iの公表の遅れ ⑨生かされなかった航空機モニタリング ⑩住民避難 ⑪史上初めて起きた病院のまると避難 ⑫安全をダメにした「安全神話」 ⑬アクシデントマネジメントの不備 ⑭安全規制ガバナンス ⑮安全神話の歴史的背景 ⑯B.5.b-海外からの警告 ⑰国際的な原子力規制 ⑱危機における日米同盟 ⑲復元力

これ等のうち、危機管理にかかわる論点を何れ整理して提示したい。

何れにしる、我々は福島原発事故から何を学ぶべきだろうか？重い問いかけがある。日本の凋落だ！

最近思うことを幾つか述べたい。

1 河村名古屋市長の南京発言について

市長の南京事件発言は至極真つ当だと小生は思う。石原都知事も同意している。国際法違反に係るような事件がなかったとは言わないが、少なくとも彼らが主張するような30万というレベルはあり得ないし、組織的であったとは考えられない。

歴史的事実が政治的忖意のもとに曲げられることがあって良いものだろうか？友好的であることは重要であるとしても、真実を歪めてまでも仲良くする謂れはない。

現地で言いにくいことをはっきり言った市長に敬意を表したい。

2 海上保安官に陸上での捜査権が付与されるべく法改正されることについて

政府は28日、海上保安庁による海上警察権を強化するため、海上保安庁法と領海等外国船舶航行法の一部を改正する法案を閣議決定し、国会に提出した。国境の離島での不法上陸などに対し、海上保安官が警察官に代わり陸上で捜査・逮捕できる規定を盛り込んだ。対象の離島は法案成立後に海保と警察庁が協議して指定するが、尖閣諸島(沖縄県)や沖ノ鳥島(東京都)、南鳥島(同)などが指定される見通しだという。

法案では、天候悪化などやむを得ない理由がないのに領海内で停泊するなどした外国船について、現行法で必要な立ち入り検査を省略して是正を勧告し、退去を命令できると規定。海上保安官による任意の「質問権」の対象者を、従来の船舶所有者らに加え、治安確保上、重要な事項を知っているとみられる陸上の関係者まで拡大する。

日本の法律は余りにも厳密であり、柔軟性に欠ける。海上における警察権はあると法に書いてあるが陸上においては認められていないというのだが、指をくわえて犯罪者を見逃せというのか、可笑しくないか？勿論可能ならば、その様なことが起きぬように法律の整備をしておくことに異存はないが、・・・

3 エルピーダメモリの経営破綻について

半導体メモリー（DRAM）大手のエルピーダメモリーは、米マイクロン・テクノロジーとの資本提携交渉を水面下で進めたが、見通しが立たずに自力 再建を断念せざるを得ず破綻となった。DRAM価格の下落と歴史的な円高 がその原因であると云われている。云わば、国策会社ともいふべき当該会社の破綻は日本の凋落の象徴でもある。

何時の間に日本はこのようになってしまったのだろうか？過去の栄光から脱却できず、抜本的な対策が打てなかったのではないだろうか？韓国や中国或いは台湾を小馬鹿にして一時の夢を貪っていたようだ。価格下落や円高の影響がないとは言わぬが、根本的な原因はそんなところにはない筈だ。それに気付かぬ日本は愚かである。

